

## 質問とご回答

### 1) 検討の進め方

- 石山・東石山地域、東区の単位で考えるのではなく、新潟市全体で再編計画を考えてほしい。

#### 【回答】

本ワークショップでは、地域密着施設である圏域Ⅲ（地域・中学校区）施設を対象としており、地域のみなさんとの協働により地域別実行計画を策定し、各施設の再編の方針を決定していくことを財産経営推進計画に定めています。

なお、利用者が広域にわたる施設は、市全体・区全体で別途検討しています。

- 石山地区公民館のように地域や区の範囲で見ると中心に立地しておらず、他区の住民も使っている施設がある。隣接する区も含めて施設配置を検討する必要があると思うので、影響がある他区の住民にも意見を聞いてほしい。
- 公共施設の使い方は世代によって異なるのではないか。参加者の年齢や性別に偏りがあると意見も偏ってしまうので、各世代の意見を広く聞けると良い。将来公共施設を使う若い世代や女性の参加者を増やしてほしい。

#### 【回答】

ご指摘いただいたとおり、石山・東石山地域の施設は、他区にお住まいのみなさんも利用されることから、施設でのオープンハウス（パネル展示型説明会）やニュースレターの配布などにより、本取り組みをお伝えし、他の区のみなさんや幅広い世代のみなさんからご意見を頂く予定です。

## 2) 施設再編の考え方

- 少子化が進めば利用範囲が変化し、時代とともに施設の利用者層も変わってくるかもしれない。人口の推移や今後の社会状況などを踏まえて再編を検討する必要があるのではないか。
- 学校の空き教室や廃止された学校の校舎を公共施設として活用する例が増えているので、学校の統廃合と公共施設の再配置はセットで考えるのが良いと思う。

## 【回答】

将来人口予測や児童生徒・学級数推計などを整理した石山・東石山地域検討資料を共有いたします。同地域においては、現在、学校の適正配置を検討する状況ではありません。また、学校の適正配置は、公共施設の効率的な管理・利活用を検討する地域別実行計画とは別に、子どもたちのより良い教育環境について教育委員会と地域が検討することとなっています。

また、空き教室の活用などについて、施設再編の方向性にあわせて、必要に応じて検討していきます。

## 3) 新潟市公共施設再編案の扱い・解釈について

- 過去いきなり再編案を提示されたので、ワークショップは形だけで、結論はもうあるのではないかという不信感が拭えない。

## 【回答】

本市のホームページに公表した「新潟市公共施設再編案」は、全市一律の考え方で作成したものであって、施設の存続・廃止を確定したものではありません。

石山・東石山地域における施設の利用実態をふまえ、より利用しやすい公共施設配置のあり方を検討することが重要と捉えており、次回のワークショップ(ステップ3)以降で、みなさんからいただいたご意見をふまえた複数の再配置案を作成、提案する予定です。提案した再配置案が、みなさんのご意見を反映したものになっているのか、修正・改善の余地があるか、お聴きしていきます。いただいたご意見をふまえ、再配置案の修正や新規追加なども実施しながら、地域実行計画として採用する案を作成してまいります。

## 4) ワークショップの運営方針

- 自分達とは異なる意見が出ているかもしれないので、グループが再編成される前に他のグループで第1回、第2回に出された意見を知りたい。最終回は再度小学校区のグループにして、再配置案の確認や意見交換ができるが良い。

## 【回答】

ワークショップの各班の検討終了後に、参加者全員で各班の意見を共有する時間を設けているほか、ワークショップの冒頭で前回ワークショップの振り返りを行い、参加者全員で意見を共有します。

ワークショップのグループ編成は、石山・東石山地域全体で最適な公共施設の配置のあり方を取りまとめるという観点から、最終回は小学校区単位でグループ編成しないほうがよいと考えていますが、今後の検討状況に応じて柔軟に対応したいと考えます。

## 5) 利用状況について

- 利用率は何%からが「高い」とみなされるのか。利用率が高い、低いという判断基準を教えてください。
- 利用率だけではなく、部屋の用途や目的に合った使われ方をしているのかにも着目する必要があると思うので、各部屋の利用用途も知りたい。

## 【回答】

利用率に、「高い」「低い」を定める基準は設けていません。あくまでも市内の同じサービス機能の施設との相対的な比較をするための値として捉えていただければと思います。

石山・東石山地域のコミュニティ施設の利用率は他地域と比較しても高い傾向にありますので、今後、複数の再配置案をみなさんで評価検証する中で、「現状の活動が確保できるか」という観点でも検証をいただければと考えています。

また、コミュニティ系施設の各部屋の利用状況について、比較的に広い部屋では、ダンス、卓球、空手などの運動のほか、自治会の会議などに利用され、そのほかの部屋では、健康マージャン、楽器演奏、書道・茶道・華道などに利用されています。

## 6) 多機能化・複合化の方向性

- これからの公共施設は民間施設との複合化も考える必要があると思うので、カフェや物販、サービス店舗などを複合している事例を教えてください。
- 新潟市として、この地域の施設をどのように多機能化、複合化するつもりなのか。既に案があるのなら聞きたい。新しい施設を建てる可能性があるなら、予算などがわかると意見が言いやすい。

## 【回答】

民間施設との複合化については、今後策定する地域別実行計画を実行していく中で、必要に応じて、民間事業者からの意見を聴き、市場性の有無の検証等、実現の可能性を検討することになります。

また、現時点では市としてどの施設を多機能化・複合化するか、具体的な方針を定めたものではありません。本ワークショップなどをおしていただいたご意見をもとに、次回のワークショップ（ステップ3）において、複数の再配置案を市から提案し、みなさんとのコミュニケーションを経て、再配置案の絞込みを行っていく予定です。

なお、新しい施設の建設の可能性や予算についても、地域での施設のあり方を考えていく中で、市の財政状況にあわせて検討していきます。